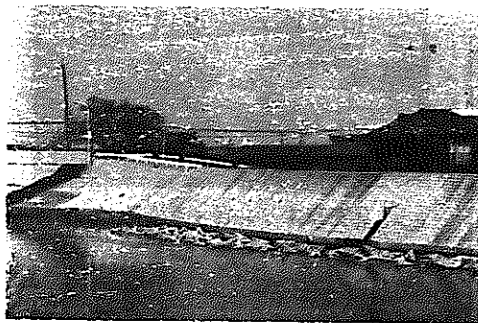


旧富月橋と柳

目でみる白根今昔

富月橋の東づめに茂る柳——旧国道が三国街道と呼ばれているところ、旅をする人にとってはかっこうの休憩所。昭和19年9月に襲った台風で倒れ、たき木となって町内の各家庭に配られたそうです。

写真[上] 昭和35年に改修される前の富月橋と柳。 [下]柳もなく富月橋もなくなった同所(4の町林栄助さん撮影)



旭町に住む主婦です。集中豪雨のたびに用水路があふれ、床下浸水などになります。早く解消できないでしょうか。

そこが聞きたい

都市下水道事業は

どうなっていますか……



▲42年8.28水害—市でも努力しています

ポンプ機一台と水路の改修などが行なわれます。水路の改修は、旧警察署わき

そこが聞きたい ご意見、ご要望がありましたら、広報係までお聞かせください。

の水路から着工され、下流から上流へと進められます。水路や側溝の改修など同工程の終了は五十四年度になる見込みです。

五代徳川綱吉の貞享四年(一六八七)に、新飯田組が徳川氏の所領となり出雲崎代官所の所管となった。さらに同組は宝永四年(一七〇七)に、旗本小浜氏の所領となり沢海知行所の所管となるのである。伝承によると、元禄二年(一六八九)の五月二十九日に町制が施かれこれを祈念して六月一日に白根神社が建立され、四・九の市日が定められたという。魚町の呼び名はこのころに始まるという、正立寺も建てられた。このとき、白根の町勢は二百二十一軒町幅五間、町長五百三十五間であったといわれる。同元年、すでに籠守なるいわば警察署が設置され、目明しが常駐していた。このような活況を現出させた主な事情は、幕府回米、信濃川筋長岡船道の指定河渡

白根のおいたち

(9)

が大郷であり、中之口川のそれが白根(旧国道が三国街道)であったから、商品流通の発展と人口の集中を促し、六斎市(月に六日の市日)の出現を可能にし、いわゆる在郷町として成長していくのである。諸事情、背後には幕府の通貨増発政策があつて一層助長される。また、新飯田、庄瀬、白根大郷方面が当時の小吉島にあつて商業都市的でないをなしていたのである。一方、開発は継続され、元禄時代に、田尾部落がかたちづくられ刈羽郡善根村から田村氏一族十五戸が十五間を、同郡妙法寺から甲斐伝右衛門という人が小坂を開拓した。また、大通川の悪水排水のため江幅十二間の掘削工事が着手され享保十六年(一七三二)に完成した。これで大きな白蓮沼は、大谷内、三枚沼、白蓮沼に三分され新田開墾が一層促進された。ところで、堀部安兵衛が姉の嫁ぎ先の庄瀬村長井氏宅に寄留したのも元禄の初めである。入府後に仕官して手紙を寄せている。それを見ると「庄瀬にてもいづれも恩災におり申さるるの由、珍重成事に存じ候」といふ愛情豊かな人柄を伝えている。

施設を一〇〇%活用することができなくなります。これらの問題は、皆さんからしっかりと燃えるゴミ、燃えないゴミを区別し、それぞれ撤出する日に出してもらえれば解決する問題です。市でも、快適な生活を送ってもらおうと努力しています。皆さんからも決められたルールを守ってもらわなければなりません。



ゴミ・ゴミ・ゴミの山—この中から燃えるゴミと燃えないゴミを判別。ムダな時間と労力を使います。

燃えないゴミがいっぱい! 持ち出し日はしっかりと守って

日増に増えていくゴミ—必要なものであれば、どんな品物でも手にはいる世の中。これらの品物も、やがてはゴミとなって捨てられる—電化製品、家具類などの大きなものから、プラスチック類まで現代のゴミは多種多様。それだけに、皆さんからは『ゴミを出すときのルール』を良く守っていただかなければなりません。衛生センターに運び込まれるゴミの中には、燃えるゴミとい

つしよに、ジュースのアキカンやビン類などの燃えないゴミもまじり処埋場では頭をいためていきます。燃えるものとして、焼却炉に入れた場合、アキカンやビン類は燃えず炉の中に残り、炉をいためる原因に



▲皆さんの協力も必要です。決められたことは、よく守り快適な生活を!

ビン類などの判別作業にムダな時間と労力を使い、せつかつくようになります。また、燃えるゴミとアキカン、

あなたがいっぱい

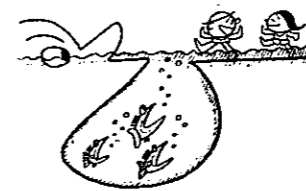
次の方々からご厚志が寄せられました。ありがとうございます

- ▷丸山弘威さん(下木山)10万円。亡父弥一さんの香典返しに代えて、市に寄付。▷石田豊一さん(庄瀬)5万円。亡妻ムメノさんの香典返しに代えて、社会福祉協議会へ寄付。▷横断旗寄贈—白根自動車学校(みの口)200本。山川正男さん(水道町)30本。竹内敏朗さん(桜町)14本。▷河野良輔さん(魚町)5万円。亡母サウさんの香典返しに代えて、社会福祉協議会に寄付。

水ぬるむ季節です—

子どもを水から守りましょう

昨年一年間、市内での水死事故は3件ありました。今年こそは、悲惨な事故が1件も起きないよう、お互いが注意したいものです。



6月29日

県身体障害者下越地区体育大会

午前九時三十分から 白根高校グラウンド



が白根(旧国道が三国街道)であったから、商品流通の発展と人口の集中を促し、六斎市(月に六日の市日)の出現を可能にし、いわゆる在郷町として成長していくのである。諸事情、背後には幕府の通貨増発政策があつて一層助長される。また、新飯田、庄瀬、白根大郷方面が当時の小吉島にあつて商業都市的でないをなしていたのである。一方、開発は継続され、元禄時代に、田尾部落がかたちづくられ刈羽郡善根村から田村氏一族十五戸が十五間を、同郡妙法寺から甲斐伝右衛門という人が小坂を開拓した。また、大通川の悪水排水のため江幅十二間の掘削工事が着手され享保十六年(一七三二)に完成した。これで大きな白蓮沼は、大谷内、三枚沼、白蓮沼に三分され新田開墾が一層促進された。ところで、堀部安兵衛が姉の嫁ぎ先の庄瀬村長井氏宅に寄留したのも元禄の初めである。入府後に仕官して手紙を寄せている。それを見ると「庄瀬にてもいづれも恩災におり申さるるの由、珍重成事に存じ候」といふ愛情豊かな人柄を伝えている。